

～ CDE 看護師より～

第 40 回愛知県糖尿病療養指導研究会学術講演会

当院では、今年初めて「糖尿病患者さんの災害時の対応」について勉強会を行い、2011年8月の「糖尿病を学ぶ集い」と11月の「世界糖尿病デー企画」の中で、情報を提供してきました。今回、糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師（以下 CDE 看護師）10 名が、第 40 回愛知県糖尿病療養指導研究会学術講演会で、「糖尿病患者さんの災害対策」について講演を行いましたので報告します。

その講演会は 2011 年 11 月 20 日、名古屋大学医学部附属病院にて開催されました。はじめに、糖尿病患者さんの災害時の物品準備についての講義を行いました。その講義の中では、私がこれまでに経験して特に印象的だった、10kg のランドセルを背負って通学している 1 型糖尿病の小学生の男の子の話と、テントや犬に必要な物も準備している犬を大切にしている 2 型糖尿病の女性の話をお伝えしました。患者さんと関わることで得られた多くの貴重な話を、他施設のスタッフと共有できたことはとても意味のあることでした。



次に、他施設の看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士 4～5 名でグループを作り、糖尿病患者さんにとって何が必要か、何kg位の荷物を準備するかなどについて話し合いをしました。



その後、数人の参加者に実際にペットボトルを入れたリュックサックを背負ってもらい、自分でそのリュックサックを背負って逃げられるか、という体験をしてもらいました。通常の紐の袋では、重い荷物を背負うと肩が痛くなり歩くことが困難となるため、登山用のリュックサックをお勧めしました。登山用のリュックサックだと胸ベルトと腰ベルトがあるため安定感が増し、比較的楽に背負えます。参加された他施設のスタッフからは、「自分1人で背負えないと…」、「自分1人でベルトの調節をしないと…」など、より災害時の行動を考えられた発言が聞かれました。細身の女性でも登山用のリュックサックで10kg程度背負うことができ、「1人子供を抱えて、1人子供と手をつないで…」と災害時の行動をシミュレーションする機会となったようです。

さて、糖尿病患者さんに必要な物品はいろいろあります。お薬手帳や糖尿病連携手帳、のみ薬・インスリン注射・血糖測定器などなど…。そして生活背景は皆さん異なり、独身だったり、幼い子供がいたり、高齢者と同居していたり、大切なペットがいたり…家族構成だけでもさまざまです。そのため、その人それぞれの非常用袋を考え、準備していく必要があるでしょう。そして私たち医療従事者は、個々の患者さんに合ったアドバイスができるように、普段から災害時の対応について考えていくことが必要です。

今年度初めて「災害時の対応」について関わり、初めて知ったこともたくさんあり、私自身も大変勉強になりました。まだまだ知識不足ではありますが、当院のスタッフ、他施設のスタッフ、そして患者さんやその家族の方など、いろいろな方の声に耳を傾け、今後もよりよい情報提供ができるように、日々頑張っていきたいと考えています。